

山銀藤山支店で剪画うちわ展 28日まで

花火や動植物あしらう



作品を鑑賞する来店者（山口銀行藤山支店で）

日本剪画（せんが）協会（小川利明代表）による納涼剪画うちわ展が、山口銀行藤山支店（堺邦彦支店長）で開かれている。会員ら24人が制作した30枚のうちわが来店者に涼を感じさせている。28日まで。

夏の剪画コンテストの巡回展。宇部市内の会員で、鶉の島ふれあいセンターでの教室で指導する松永篤さん（小松原町）の

動き掛けで、昨年に続き2回目の開催となった。剪画は、和紙など一枚の黒い紙をカッターで切り抜いて黒と白のコントラストで光や陰、立体感を表現し、台紙に貼って完成させる。夏のコンテストでは台紙をうちわに変えて自由な発想で季節を描き、技術と表現力を競う。

すだれを額縁替わりに、季節の花や小動物、風景、夏の夜を彩る花火などを描いた作品がロビ

ーを彩っている。金賞を獲得した清水良浩さん（兵庫県）の「水中の涼」は、水中から水面を見上げる構図が印象的。モノトーンながら、金魚の色や水中植物の色、水面に反射する光の色が見る人の想像力をかき立てる。松永さんは「白と黒を基調としたシンプルな表現ながら、線に作り手の個性が現れる。暑い中、涼を感じてもらえたらうれしい」と話した。